

日工販ニュース Vol.21 No.07



第40回 通常総会

2

「会長就任挨拶」	柴田 實	2
「議事録」		4
「記念講演：未来予測 2009-2020～米国一極後に世界とビジネスはどう変わるか？」	(株)アクアビット 田中 栄	6
「懇親パーティー」		11
「新役員紹介」		16
「日工販会長退任挨拶」	尾瀬 俊憲	19

話題の技術 「ポリゴンモデル用CAMシステム STL CAM」

(株)牧野フライス製作所 小川 隆司 20

私の読書評 「日本経済の勝ち方 太陽エネルギー革命」 (株)不二 池浦慎一郎 23

リレー随筆 (株)北川鉄工所 高峰 智徳 24

工作機械と私 トッキ・インダストリーズ(株) 尾林 哲夫 25

議事録 「東部情報交換会」「中部正・副会員懇談会」 26

甘口辛口 (株)山善 関矢 信雄 31

統計資料 「FA流通動態調査1」「業種別受注額」 32

SE教育 「合格者」 34

消息・行事 34

会員会社 36

SE資格者にご回覧下さるようお願いいたします。

第40回通常総会

開催：平成21年6月10日(水)

会長就任挨拶



日本工作機械販売協会 会長

柴田 實

第40回通常総会にて会長と言う大役を拝命いたしました柴田でございます。

日工販の会員の皆様には日頃より温かいご理解とご協力を賜りお礼を申し上げますと共に、尾瀬前会長同様引き続きご指導ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

100年に一度と言われます暴風雨の中でこの大役をお引き受けし正に身が引き締まる思いですが、お引き受けした以上は微力ではありますが全力で取り組んでゆく所存です。

振り返ってみますと私の前々任の社長の池澤が会長を拝命したときもITバブルがはじけた2001年の工作機械業界が打たれ始めた年で、私どもの会社から会長を拝命する時はこういった試練を与えられる宿命のようなものを感じている次第でございます。

どこへ行っても明るい話はなく、話す方も聞く方ももう、うんざりと言ったところではないかと思いますが、この不況を冷静に振り返ってみますと、始めは心理的不況から始まったと思います。それが日を追うごとに実態経済に本当に影響が出てきて今日に至っているのではないかと思います。

本日マスコミの方も来られておりますが、マスコミ特に大新聞やテレビの報道にも責任があったのではないかと感じております。

読者の不安心理をあおるような記事が氾濫していたと思います。

直近の例で申しますと4月の日工会の速報の発表も日工会は前月比、前年同月比と両方発表していますが新聞には前年同月比80%減しか記載がありませんでした。逆に前月比20%増と書いてくれれば、全体としては勿論低空飛行ではありますが、何となく回復基調に転じるのかなと言った印象を与え、読者や投資家としても見方が多少は違うのではないかと思います。

昨年度の第一四半期は絶好調で今後もこれと比較しても、この不況の動向ということからは意味が無いのではないかと考えております。

まあ愚痴っぽくなってきましたが、いずれにせよトンネルには必ず出口があり、又必ず夜明けはきます、只夜明け前が一番暗いという人もいますが、兎に角、今は何とか耐えて体質改善も行い来るべき時に備える時期であることは間違いないと考えております。

最近ダーウィンの種の起源、進化論が見直されております。

進化論では最後まで生き延びることができるものは、強いものでも、巨大なものでも、又賢いものでもない、周りの環境にいち早く対応できるもののみが最後まで生き延びることが出来るというものです。

正にこれは企業にもすべてのものにも当てはまる訳でGM、クライスラーはその典型であったと思います。

あらゆるものが想像もしないスピードで変化している現在、如何にタイムリーな対応が打てるかが最も重要なことだと思います。

日工販も何とか変化をいち早くキャッチアップして柔軟な運営を行なって参りたいと考えております。

又、変化に柔軟に対応できるのは我々商社の強みでもあると思っており、逆にこのピンチをチャンスに変えることも出来るのではないかと考え、日工会の方々とも情報交換等関係をよりいっそう密にして製販一体となってこの難局を切り抜けてゆきたいと思っておりますので、引き続き関係各位の皆様のご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

議事録

日 時：平成21年 6月10日(水)
 13：00～13：54
 場 所：八重洲富士屋ホテル

日本工作機械販売協会 第四十回通常総会 平成二十一年六月十日 八重洲富士屋ホテル	総 会 次 第
開 会	開 会 長 挨拶
議 案 選 出	議 案 審 議
第一号議案 二十年度事業報告	並びに決算案承認の件
第二号議案 会費徴収の件	並びに決算案承認の件
第三号議案 二十一年度事業計画案	並びに予算案承認の件
第四号議案 会長・副会長承認の件	
会 長 表 彰	
開 会	
記 念 講 演	
講 師 田 中 栄 氏	
演 題 (株)アクアビット代表取締役社長 未来予測2009-2020 「米国一極後に世界とビジネスは どう変わるから」	

[議 事]

1. 開会(13:00)

宇佐美専務理事が進行係となり、別紙「総会次第」に従い議事を進めた。

2. 総会の成立

専務理事より「本日の出席者44社(48名)、有効な委任状提出20社、合計64社であり、現在の在籍正会員数は71社につきこの総会は定款の定めにより成立する。」旨報告した。

3. 会長の挨拶

尾瀬会長より、「会員各位のご協力をいただき只今から上程議案の審議をお願いいたします。」との開会の挨拶があった。

4. 議長の選出

定款第14条に従い尾瀬会長を議長に選出した。

5. 議案の審議

第1号議案から第4号議案まで審議の結果、それぞれ次の通り承認された。

(1) 第1号議案 平成20年度事業報告並びに決算案承認の件

- ①会長が事業報告書の「概要」を述べられた。
- ②専務理事が「決算報告書」を説明した。
- ③議案の審議に先立ち議長は監事に対し監査結果の報告を求めた。
- ④監事を代表して三橋監事から「平成20年度の収支計算書、貸借対照表、諸帳簿、証憑を監査した結果、適正であることを認める」旨報告があった。
- ⑤議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。



(2) 第2号議案 会費徴収の件

- ①会長が提案理由、内容等を述べられた。
- ②議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。

(3) 第3号議案 平成21年度事業計画案並びに予算案承認の件

- ①議長が事業計画案を提示、専務理事から予算案について説明した。

事業計画では基本方針に基づき、平成20年度の事業の概要を引き継ぐとともに、各行事の継続実施と充実を図る。

一般会計予算は、厳しい経済不況下における緊急対応として下期会費の徴収をしない第2号議案承認により、会費収入減のため収支差額は大幅マイナスとなる。教育事業特別会計は、受講者見込みを基礎講座・SE講座・更新研修ともに減とし受講料を主とする収入総額は減少し、収支差額はマイナスとなる。

- ②議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。

(4) 第4号議案 会長・副会長承認の件

- ①議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。

以上で議案審議は終了し、議案は全て承認された。

6. 議長挨拶

議長は、以上をもって全議案の審議が終了したことを告げるとともに、出席者の協力に対し謝辞を述べた。(13：44)

7. 会長表彰

表彰・感謝状贈呈基準により、尾瀬会長より10年間理事、委員を務めた サンコー商事(株) 取締役会長 井内 敬氏、下野機械(株) 取締役社長 下野信重氏、(株)TEMCO 常務取締役 田尻哲男氏、(株)牧野フライス製作所 販売促進課マネージャ 森田一志氏の4氏に表彰盾が授与された。



8. 新旧会長挨拶

(1) 尾瀬前会長退任の挨拶

議案審議後、尾瀬前会長より、2年間の在任期間における会員各位のご支援とご協力に対して謝辞が述べられた。

(2) 柴田新会長就任の挨拶

引き続き柴田新会長より、会員各位のご支援を受け、協会の更なる発展に尽力する旨挨拶された。



9. 閉会

宇佐美専務理事より、閉会を宣し通常総会を終了した。(13：54)

『未来予測 2009-2020 ～米国一極後に世界とビジネスはどう変わるか?』

講師：田中 栄 氏 (株)アクアビット 代表取締役チーフ・ビジネスプランナー

第40回通常総会に引き続き、14時20分より約1時間50分にわたり恒例の講演会が102名の参加者を迎え開催されました。富田総務委員長からの講師が紹介され田中講師により、今後のビジネス社会の変化について豊富なデータを駆使して私達にとって大変興味深い内容の講演がありました。

当日田中講師の講演を聞けなかった会員の皆様に講演要旨をここに紹介致します。

講師略歴：

北海道出身、早稲田大学政治経済学部卒、'90年(株)CSK入社、社長室経営企画部、'93年マイクロソフト(株)入社、マーケティング戦略担当、'03年マイクロソフト社円満退社後、(株)アクアビット社設立、代表取締役チーフ・ビジネスプランナー就任、現在に至る。

●未来予測の考え方

これまで暗黙の了解として社会はこうだという前提があったが、基本的な考え方として社会が変わればビジネスも変わる。例えば経済は毎年伸びる、人は必ず増えて行く、東京は首都である等、当り前のことがあったが、最近のニュースをみていると世の中の形そして方向が変化してきている。例えば日本の



人口は2004年をピークとして減り始めている。地方分権、道州制の話も出てきている。少なくともこの10年間をみれば日本の物価は下がり続けている。今までは右肩上がりの成長を前提にいろいろなものが作られたが、実際には物価は今の世の中では下がるのがあたり前という形になっている。従って今までのように連続ではなく不連続な社会が21世紀とすると社会が変われば世の中のビジネスも変わる。変わっている例として恵比寿ウエスティンホテルでは結婚式が減ってきている一方ホテル葬が増えてきておりこれに力を入れている。10年前と10年後を比較すると70歳以上の人口が倍となる。平均寿命は延びているものの葬式の数は倍となる。世の中の変化によって伸びてくるものがある。これからの世の中の変化をみていくことはこれからどんなビジネスが出てくるか、あるいはビジネスをどう変えなければならないかという指針になってくる。従って世の中のニーズがどのように変わって行くかをみなさんと考えて行きたい。

● 世界経済の構造変化

今までの世界経済の構造は、一口で言えば米国一国により世界の黒字を支えてきたという構造だった。'98年ごろから日本に加え韓国、台湾そして中国、中東が貿易・投資は黒字であったが、米国は一環して経常赤字が続いてきており、'95年ごろまではそれほど大きな赤字ではなかったが、以降赤字額が増え始めここ数年間は100兆円近くの赤字額となっているが、その赤字によって世界の経済が潤ってきた。米国経済は、最初はITだったが、その後パイオへと移り、手を替え品を替えてきたが、今は行き詰って

る。米国は200兆円のお金を使った（輸入）が、稼ぎ（輸出）は100兆円だった。国際収支をみると、経常収支が赤字となっているが、投資、国債発行などによる資本収支によって支えられてきたのが基本構造であった。こうした米国経済を支えてきたのが米国投資銀行であったが現在は物理的に消滅し普通の銀行になり機能しなくなっている。貿易の基本構造を考えれば得意なものを輸出し、足りないものを輸入することだが、90年代以降それがいびつになってきた。その背景は日本、中国が国債を買ってくれ、他の国が投資をしてくれたからである。

● もう一段のドル安（2-3年以内に1ドル=60円台になる可能性）

厳しい経済環境下、敢えて最初に厳しい話をすると、多分今まで経験したことが無い円高が起こる可能性がある。沢山理由があるが三つ挙げると、

①米国全体が投資銀行の役割を果たしてきたが、その業界が消滅してしまった。結果として米国には製造業が必要であるとオバマ大統領は理解し気づいたことは、金融業で儲けてもその過程においては一握りの金持ちしか生まれないが、製造業は、材料、加工、組み立て、販売など様々なプロセスがあるので多くの雇用が生まれ、雇用がないと経済は安定して伸びないと気づいた。特に自動車産業は重要であると理解し国を挙げて支援をしている。米国は金融業から製造業に変わったのである。従って米国が製造業で輸出競争力を高めるためには「ドル安」にする必要がある。基本的には為替は政策により動く。

②ドルの信用力が著しく低下し、ユーロ、元、

ルーブルなどが国際通貨の地位を狙っており、国際取引で本格的なドル離れが起り、一気に加速（暴落）する可能性もある。なぜこれまでドルが支持されてきたと言うとドルを持っていたら何でも買えたからであって、現在は、例えばイランの石油を買おうとするとドルでは売ってくれずユーロ又は円が必要、世界で石油産出第一位はロシアだがルーブルでなくては売ってくれないようにドル離れが進んでおり、ドルの相対的価値が下がっている。

③昨年8月から12月までのわずか4カ月にドル紙幣を刷りまくり通貨流通量は8千億ドルから1兆6千億ドルと2倍に急増した。しかしどこも購入しないのでFRBに購入させている。

● 未来は人口で予測できる

世界全体の人口は爆発的に増えている。現在68億人の人口で、世界の人口が50億人を超えたのはそれほど昔のことではなく1987年だった。1950年の人口は25億人だったので記憶の範囲の中で人口は2.5倍に増えている。国連、世界銀行などの予測によると2050年には90億人になるであろうと言われている。従って人口が爆発的に増えるということ的前提にこれからのビジネスを考えていかねばならない。人類の歴史は分かっているだけで300万年あるが、それだけかかって20億人ほどになったのがわずか2-30年で3倍ほどに増えている訳で、いかにものすごいペースで人口が増えているかがお分かり頂けると思う。しかもこの爆発的に増えているという話は、実は中国、インド2カ国のこと。日本を含めた世界の先進国という国は軒並み人口

が減少している。但し一つだけ例外があって北米は先進国の中で唯一人口が増えている国で、この背景としては白人女性の出生率が2.0を超え、ヒスパニックはもっと高く、そして移民が増えている。経済予測として年齢層の分布をみると日本は若い稼ぐ人の層が少ない「人口オナーズ」状態で、中国、インドは稼ぐ人の層が多い「人口ボーナス」状態であるが中国は2030年頃には日本と同じような状況となる。インドは教育が終わってこれから稼ぐ人の層が多い若い国で今後注目しなければならぬ。

● 自動車市場の予測

先ほどの人口の予測でいけば間違いなく言えることは、インドは広い国土に道路を造っており鉄道もなく経済発展のための輸送手段として自動車はものすごく伸びていく。これまでの中国の発展と同じようなことがインドで始まるわけで中国のような市場がもうひとつ出来ることになる。

● 資源が足りなくなる

これからありとあらゆる資源が物理的に足りなくなる。ネオジウムを使った。ネオジウム磁石というものがあるが、これは世界最強の磁石でハイブリッド車のモーターとか高性能ヘッドホーンの中の磁石、ハードディスクのヘッドなどいろいろなところに使われているが93%が中国原産なので、中国が輸出禁止した瞬間に産業自体が止まる可能性がある。携帯電話などいろいろなものに使われているリチウムイオンのリチウムに関して言えば世界の84%が南米のチリ、パラグアイなどの4カ国で産出している。これらの国がリチウムの

輸出を止めてしまえばリチウムイオン電池が作れなくなってしまう。元素の中でリチウム以上に電気を貯め込む働きをする元素はない。リチウムの確認されている世界の埋蔵量は1,300万トンぐらいで、リチウムはアンデス山脈の山の上でとれるが現在の年間消費量が6-7万トン位で、これからハイブリッド車、あるいは電気自動車に一気に向っていくとすると自動車は年間生産量が6,000万台として、これに使うとすると年間60-70万トンのリチウムが必要となってきた、物理的に埋蔵量全てをとることは不可能だが、すべて使い切るとしてせいぜい20-30年しかもたないことになる。これからの経済は全ての人が欲しいとしてもそれだけ満たせる量がなく、地球の限界を意識してこれからのビジネスを考えなければならない。リチウムのことを例に挙げたがこれからはあらゆる資源が足りなくなる。

● 21世紀ビジネスに共通する価値観

今、歴史的な転換であることが二つ起きている。一つは人口増加から環境・資源問題そしてエネルギー問題即ち石油から電気への変化。世の中全体がオール電化に向かって行く大きな流れがある。二つ目は技術革新によるブロードバンドへの流れ。この二つの大きな転換によりビジネスのあり方が変わって行く。この転換による変化を三つ挙げると、一つは市場環境としてドルがあつての経済圏という米国一極集中による自由化から経済、資源という観点から世界の多極化となりそれぞれの地域の中でブロック化していく。そうになると画一した世界戦略商品を販売していくことが難しくなってくるし、今までに無かった

規制というものが出てくる可能性がある。二つ目はビジネスの評価基準として成長性からリスクを考慮した上での持続可能性、安定性。来年、再来年は成長が見込めるがその後ははっきりしないビジネスよりも、どれだけ長期にわたって確実にお金が入ってくるかということを見ます。先進国はこれから人口が減っていく中で市場も小さくなっていくので成長よりも安定性が重要視されてくるし、社会の変化の要因を踏まえてビジネスが確実に持続出来るかが問われてくる。その中で考えなければならないのは再生可能であること、安定性、そして多様性も持続するためには不可欠なことである。三つ目は今までは早く、安く、うまく作ることに何も問題はなかったが、環境、資源問題が様々な場面で限界とか制約が出てくる。そうすると数量で稼ぐということが難しくなってくるし、社会全体に対する責任が問われ、会社の業績だけではなく社会全体にメリットがあるかということが問われる。ヨーロッパに行くとタバコと同じように社会から叩かれている産業がある。それはファーストフードで、太る原因として地域、時間帯で広告禁止、ポスター禁止の措置がとられ米国ですら南カリフォルニアでは一年間マクドナルドの出店禁止となった。太るのは何もファーストフードが原因だけではないというのは我々日本人の考えで世界はそうなるはおらず、タバコの例でも肺癌になるのはタバコだけが原因ではないわけであるが、ファーストフードは太る原因であり医療費が増え社会の負担が増えると考え。社会的責任とはそういうことで社会のメリットに反するビジネスは受け入れられないということである。これからのビジネスの流れとして

ものにサービスを付加したビジネスであるプラットフォーム化と二つのビジネスが一緒になって初めて相乗効果を発揮する複合化がある。

●電気自動車

力学エネルギーから間違いなく電気エネルギーへと転換する。これは世の中全体が変化していく中で自動車も変わらざるを得ないことである。道路を汽車が走っているような状態なのでエンジンからモーターへの転換は避けられない。モーターに転換されることにより自動車産業の在り方が変わってくる。

一番怖いシナリオは電気自動車の時代へ中国が一気に世界をリードすることで、自動車メーカーと話しているとその可能性は少なからずあるようだ。中国では電動スクーターが急速に伸びており、'08年で2,000万台生産され、'05年では1,300万台であった。そして現在電動スクーターのメーカーは数百社もある。インドではタタが2輪車を2台並べれば30万円で車が出来るという発想。従って中国でも電動スクーターを2台並べれば電気自動車が出来てしまうことになり、中国では電気自動車を製造するメーカーは数百社レベルで

出現する可能性がある。

20世紀は石油をめぐる時代、飛行機、自動車、工場などを動かすのに石油が必要であった。そしてメカニクス（機械）の時代からエレクトロニクス（電気、電子）の時代となり今は電子部品が世の中を動かしている。資源は鉄からレアメタルが中心となりエネルギーは石油から電気の時代となっている。

●21世紀ビジネスに共通する4つの価値観

これからどんなビジネスになっていくかと考えると4つの基本条件がある。第1に「グローバル化」であってこの中で多様化を意識する必要がある。国内市場だけではないこと、世界情勢や需給関係が業績に直接影響する。第2に「環境」と「資源」というものに新しい制約条件が出てくる。やみくもに生産拡大ができないし、業績にプラスすることで社会的責任がある。第3に今までとは違う「ブロードバンド」という新しい前提条件がある。客先と直接つながることでビジネスモデルが変化する。第4に「持続性」という新しい評価基準。成長性より将来的な収益の確実性が重要となる。 ■



懇親パーティー

平成21年6月10日(水) 16:20～18:00 八重洲富士屋ホテル2階「櫻の間」

日工販第40回通常総会、記念講演終了後、来賓及び会員137名が出席し懇親パーティーが開催された。

宇佐美専務理事の司会の下、新たに選任された柴田新会長（三菱商事テクノス(株)取締役社長）より就任の挨拶があり、次いで経済産業省製造産業局産業機械課長 米村 猛氏並びに(社)日本工作機械工業会会長 中村健一氏より来賓のご挨拶を賜った。続いて日本工作機械輸入協会会長千葉雄三氏よりご挨拶を賜り、同氏の乾杯のご発声で一同乾杯し、懇談が繰り広げられた。定刻になり後藤副会長の一本締めで中締めが行われた。



◇来賓ご挨拶◇

経済産業省製造産業局産業機械課長
米村 猛 様



ご紹介いただきました経済産業省産業機械課長の米村でございます。ご参集の皆様方には直接・間接いろいろなところでお世話になっており、ありがとうございます。

今会長のお話しにもありましたけれど、やはり景気ですが1、2カ月前迄はお先真っ暗みたいな感じだったのですが、最近多少良い情報が少しずつ入ってきているというところかと思えます。鉱工業生産指数も上向き傾向でありますし、2、3日前でしたか民間エコノミスト達は7割方底を打ったのではないかと考えておりますが、少しずつ明るいニュースが出てきております。おそらく毎月景気判断を行なう今月の月例経済報告ではたぶん底打ち的な感じの表現に改まるのではと思えます。先月は下げ止まり傾向と言いますか下がる巾が少なくなったみたいのところでしたが、今はもう一段踏み込むのではというこ

とが霞が関の中で少しずつ言われてきております。蓋をあけてみなければ分かりませんが反転的なところが出てきたのかなというところではありますが、機械産業はもう少し設備過剰感がまだありますので辛い状況があるかなと、在庫は結構はけてきておりますけれど製品が動くにはもう一段かかるかなということで、良いニュースなのですがしばらくの辛抱かなという感じです。政府としては補正予算を決めていただきましたので一日も早く執行して実際の経済を動かして、15兆円使うわけですからこれを力強い成長に向け、そのベクトルとしては上を向いて上げていくために使いたいと思っております。新三種の神器と言われ車、家電、太陽電池ということでもありますし、皆様方との関係で一つお聞きになった、700億円と言われておりますけれどサポートインダストリー・中小ものづくり高度化法で20位基盤技術がありますが、これについて申請者は中小企業に限られるのですが中小企業者がそういう分野についての製品開発とか販路開拓について補助金を出すと、経済産業省にしては珍しく700億円も出すということをやっております。皆様もお耳に入っておられるかと思いますが、そういうところについても是非ご注目いただいております。国の宣伝はすごく下手でネットに乗せて終わりとか商工会に置いて終わりということになっているかも知れませんが、これについては相当頑張って公募しますのでいろいろなところでお聞きになっているかも知れません。700億円ですから1件5000万円としても1400件で相当なところに資金を供給することができますと思いますので是非興味をもってやっていただきたいと思います

ますし、中小企業の申請者ですがバックに大企業とか中堅企業の方々、あるいは販売事業者の方々が中小企業と組んでそういうことをするということは当然想定されますので、中小企業の方々とご相談していただいて申請していただくというのはもちろん有りであります。中小企業政策等ということで限定的に考えずにいろんなところでお使いいただければと思います。その他補助金とか助成等いろいろあります。また雇用調整助成金ですが国が給料の一部を肩代わりするというで不十分かも知れませんが助成していますし、資金についても信用保証とか融資とか多数にわたり拡大をしております、要件を多少緩和するというで施行されておりますので、この辺についても是非見ていただいてお使いになりそうなものは是非お使いいただき皆様方で自身ではなく周りの方かもしれません、今が一番大変な時期だと思いますのでこういうものをお使いいただいて、ご一緒に乗り切っていただきたいと思います。昇時期ですから必ず上がるのでその時にどういう形で上がっていくかはこの間の使い方が大事だと思います。先程の講演でもいろいろお話があったのだと思いますが、将来どうなっていくのか、トンネルを抜けるとたぶん同じ世界ではなくなっていると思います。雪国だったということはないと思いますが、常夏の国でもなく、少し景色が変わっていてその景色のことを考えながら今から打てる手を打っていただく、大変だと思いますけれど適者生存的に皆様も残っていただくわけですが、伸び方としてそういう方がより一層伸びるのでは思ったりしています。その意味では工作機械の関係で言うとユーザーが少し変わってくるのか

もしれなくて、今は、車とか電気とかということですけど、例えば風力発電とか医療関係とかこういうところについてもさらに伸びて来るとお思いますので販路開拓について、私が申し上げなくてもいろいろやられているとお思いますが大変だとお思います。雑談ですがこの前、三菱重工(株)横浜製作所に行き風車を登ってまいりまして、高所恐怖症ですが突然昇れと言われまして小さなエレベーターで命綱をつけて百数十メートルのところに登ったのですが、環境とか、省エネとか、医療とかいったところがこれから伸びる可能性が大きいです。MRIと言えばこの前始めて人間ドックに入ったのですが、医療器械でも皆様方が販売された工作機械が直接・間接に役に立っており、いろいろなところでこれからも工作機械製造販売が日本を支え、世界を支えていくのだとお思います。そうしたことに国もいろいろ考えたいとお思いますのでご意見もいただきながら、先程の製販一体でとのことですが、ここに官も混ぜてもらって、製販官一体で、ただあまりベッタリになりすぎると問題もありますが、私どもが皆様方のご意見をいただきながら頑張りたいとお思います。微力でございますと税金もらって何なんだという感じだとお思います、一生懸命頑張りますので、お知恵を貸していただいて是非厳しいご叱咤もいただきながら頑張りたいとお思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いを申し上げます。

最後になりましたけれど、日工販のますますのご発展、ご参集の皆様方の会社のご発展、ご参集の皆様方のご健勝を祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

(社)日本工作機械工業会会長

中村 健一様



ただ今ご紹介いただきました日本工作機械工業会の中村です。

本日はお招きいただき厚く御礼申し上げます。また日工販の皆様方には日頃我々日工会の全メンバーが大変お世話になっております。この場を借りて御礼を申し上げます。100年に1回という大変な折に私同様会長になりました柴田会長とともに苦しさを乗り越えて先導役を務めなくてはならないという思いであります。先日速報値で274億9600万という相変わらず低い数字が出ました。前月比ではプラスというものの数字が悪すぎますのでトンネルの中で底ばい状態が続いているという理解をしております。日本市場を考えますとやはり製造業の今年の生産ボリュームというものが6、7割位が精一杯になるとすれば余剰人員で正規社員のリストラがより高まる心配があります。そういう意味では国内市場はやはり厳しいという感じをしております。それからアメリカ市場であります。自動車のクライスラーに続いてGMも再生法申請という形でいったのですが、今朝の新聞ではクライスラーの方は最高裁判所から資産売却延期命令が下りたということでちょっと驚い

ております。延期が長引けばイタリアのフィアットはもうこの話はなかったということになりますとクライスラーも吹っ飛びますので、GMも前途多難になりますから、年金基金等の債権者からの要請等あるようでありますが一寸困ったことだなという思いがしております。また、アメリカのメガバンクの方ですが第4四半期までは赤字だったわけでありましたが今年の第1四半期はメガバンク全てが黒字になったということですが、考えてみれば会計基準を変えているわけで変えなければやはり赤字ですから、そういう面で表面の精神的な面と時間稼ぎをしたいとアメリカもギリギリのところをやっていると言う面で、依然として危うい状態にあるというのは事実だと思います。

ただそういう流れで先程の柴田会長、米村課長からのお話にもありましたように良くなってきている面もあることも事実です。中国の方も動き始めました、そうしますと原油が上がってきました。それから他の資材も上がってきました。原油が上がってくるとやはりオイルカントリーも採算ベースに入りますのでいろんな計画がまた再び動き出しますからそういった面では原油は、高くなり過ぎると困りますが、ほどほどの彼らの採算ベースでやはりあるならば決して悪いことではないと思っております。いずれにしてもトンネルの先は今までの我々の過去経験してきた市場と全く変わった市場になっていると思いますし、我々がその変化への対応を如何にしっかりできるかにかかっていると思っております。これは日工販の皆様方とお互いに協力し合っ
て新しい時代の新しい我々の製品であり販売でありそのことをお互いにコミュニケーショ

ンを良く図り、新しい時代への対応をしっかりと成し遂げていきたいと思っております。現場にいる者として本当はこの席で良い話をしたいのですが現実から逃げてはいられないものですから厳しい中で、しかしトンネルの先には出口が絶対ありますし、そのトンネルの長さは自分たちの努力で短くなったり長くなったりにかかっておりますので、ここはひとつ頑張りどころだと思っているわけでございます。そういう面では是非とも日工販の皆様方とともに我々工作機械業界は頑張っていきたいと思っております。最後にここにご参集の皆様方のご多幸と日工販のますますのご発展を祈念いたしましてご挨拶に代えさせていただきます。

日本工作機械輸入協会会長

千葉雄三様



皆様こんばんは。日本工作機械輸入協会会長の千葉でございます。本日はお招きにあずかりまして有り難うございます。私は柴田会長様と同じく先月末の総会で就任いたしますが、心の中では大変な時に引き受けたと言

うような気もしておりますが、とにかく悪いことばかりではありませんので、最近社内の報告でもボツボツではありますがお客さんの動きができたよと言う声も多くなりまして、また同業の商社の皆様からもボツボツですけど上向いてきていると現場の声を聞くことが多くなってまいりまして、皆様言われておられました様に今年の秋から年末に良くなり

始めるという声が多かったのでございますが現実にはもう既にその動きは出ているという感じがしております。そこで皆さんとの乾杯は1日も早い景気回復を祈念して乾杯いたしたいと思います。それではご唱和をお願いします。

それでは1日も早い景気回復を祈念いたしまして、乾杯。



後藤副会長による中締め



平成21年度 日工販新役員

(7月1日 現在)

協会役職	会社名	役職名	氏名
会長	三菱商事テクノス(株)	取締役社長	柴田 實
副会長	植田機械(株)	取締役会長	植田 精一
副会長	(株)トミタ	取締役社長	富田 薫
副会長	三栄商事(株)	取締役社長	後藤 正憲
専務理事			宇佐美 浩
理事	伊藤忠メカトロニクス(株)	取締役社長	尾瀬 俊憲
理事	(株)兼松 KGK	取締役社長	坂田 育文
理事	(株)共和工機	取締役社長	岩崎 逸三
理事	双日マシナリー(株)	取締役会長	長久保 敏
理事	(株)TEMCO	常務取締役	田尻 哲男
理事	トッキイングストリーズ(株)	取締役社長	角田 勉
理事	(株)NaITO	取締役社長	鈴木 斉
理事	(株)ナチ常盤	取締役社長	野上 彰
理事	三井物産マシンテック(株)	取締役社長	谷本 敦
理事	ユアサ商事(株)	常務取締役執行役員 工業マーケティング事業本部長	鈴木 通正
理事	(株)井高	取締役社長	高田 研至
理事	サンコー商事(株)	取締役社長	野路 周治
理事	三立興産(株)	取締役社長	加藤 斉
理事	(株)東陽	取締役社長	羽賀 象二郎
理事	(株)不二	取締役会長	池浦 捷行
理事	山下機械(株)	取締役会長	山下 隆蔵
理事	赤澤機械(株)	取締役社長	赤澤 正道
理事	伊吹産業(株)	取締役社長	横幕 武夫
理事	宮脇機械プラント(株)	取締役社長	宮脇 隆一郎
理事	(株)山善	執行役員 機械統括部統括部長	関矢 信雄
監事	(株)テツカ	取締役社長	三橋 誠
監事	下野機械(株)	取締役社長	下野 信重
監事	京華産業(株)	常務取締役	岩切 修

委員会委員長

委員会	会社名	役職名	氏名
政策委員会	三菱商事テクノス(株)	取締役社長	柴田 實
総務委員会	(株)トミタ	取締役社長	富田 薫
教育委員会	三栄商事(株)	取締役社長	後藤 正憲
調査広報委員会	(株)TEMCO	常務取締役	田尻 哲男
国際委員会	三井物産マシンテック(株)	取締役社長	谷本 敦
東部地区委員会	(株)兼松 KGK	取締役社長	坂田 育文
中部地区委員会	(株)井高	取締役社長	高田 研至
西部地区委員会	赤澤機械(株)	取締役社長	赤澤 正道



会長兼政策委員長
柴田 實



副会長
植田 精一



副会長兼総務委員長
富田 薫



副会長兼教育委員長
後藤 正憲



専務理事
宇佐美 浩



理事
尾瀬 俊憲



東部地区委員長
坂田 育文



理事
岩崎 逸三



理事
長久保 敏



調査広報委員長
田尻 哲男



理事
角田 勉



理事
鈴木 斉



理事
野上 彰



国際委員長
谷本 敦



理事
鈴木 通正



中部地区委員長
高田 研至



理事
野路 周治



理事
加藤 斉



理事
羽賀 象二郎



理事
池浦 捷行



理事
山下 隆蔵



西部地区委員長
赤澤 正道



理事
横幕 武夫



理事
宮脇 隆一郎



理事
関 矢 信 雄



理事
三橋 誠



理事
下野 信重



理事
岩切 修

日工販会長退任挨拶



日本工作機械販売協会 前会長

尾瀬 俊憲

この度の通常総会をもちまして日工販の会長を退任いたしました。2年間の在任中、会員の皆様、理事の皆様各委員の皆様には多大なるご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。又、事務局の皆様には日々の運営を一手に引き受けてご尽力頂きました。本当に有難うございました。

お陰様で無事大役を果たすことが出来ましたと申し上げたいところですが、正直申しまして、そんな悠長なことを言っている場合ではないという心境でございます。

5月の日工会の受注数字を見ましてもまだまだ惨憺たる状況であり、販売を担う日工販としては、誠に情けない数字が続いております。

日本経済全体及び工作機械の受注は底入れの気配が見えますが、私共工作機械業界の経営にとっては今からが不況の本番ではないかと感じております。

この半年程は、一業界、一企業でいくら頑張っても手に負えないほどの暴風雨だったかも知れませんが、いつまでも金融危機と不況のせいにはいきません。

必ず景気は回復します。但し、回復のスピードは業界や夫々の企業の努力次第で早くも遅くなる大事な時期にさしかかっていると思います。又、トンネルを抜けたあとの景色は今とは大きく変化していると考えています。変化を先取りして先手を打つ、ユーザーニーズとメーカーの技術を知る商社の出番だと思います。

まず、我々日工販のメンバー会社が、一人でも多くのお客さんに一台でも多く新しい機械を買っていただくよう提案することが大事だと思います。

この様な状態で柴田新会長にバトンタッチすることは、心苦しく思っておりますが、柴田会長は非常に高い見識と何よりも明るく前向きなバイタリティをお持ちですのでリーダーシップを発揮してこの難局を切り抜けていただけるものと確信しております。

私も引続き微力ながらお役に立てるよう努力したいと思っております。

来年日工販は40周年を迎えます。日工販並びに会員各社が来年までなんとしてもしっかりと生き残って、次の新しい10年に向かって明るいスタートを切れることを心より祈念致しまして私の退任のご挨拶とさせていただきます。

皆様のご協力とご支援、誠に有難うございました。

分かりやすい話題の技術

Inteligible Recent Technics ★

No.114

ポリゴンモデル用CAMシステム

STLCAM



(株)牧野フライス製作所
モールドソフトウェア本部 技術販促グループ
小川 隆 司

はじめに

STLCAMは、デジタイジング(現物)・コンピュータグラフィックス・画像データ(写真)・汎用CAD等で作成されたポリゴン(STL)モデルから、直接NC データを出力するCAMシステムです。

STLCAMは、マキノが長年にわたり蓄積してきた高能率加工の加工技術である、浅切り込み高送りの加工パス作成機能と、高速加工のための加工条件データベースを持つCAMエンジンを使用して、ポリゴン(STL)モデルから高精度のNCデータを出力できます。

STLモデル

STLとは、三角形パッチや四角形パッチの組合せで形状を表現する、ポリゴンモデル用のファイルフォーマットの一つです。ここではSTLというファイルを使って表現されるモデルをSTLモデルと呼びます。

ラピッドプロトタイピングや有限要素法解析などで多く使用されています。STLデータで作成される3次元モデルは、一般の機械系CADで

作成される3次元データとは異なり、隣り合う形状(三角形のパッチ形状)での拘束条件が緩いため、デザイン物など自由度を要求される形状を扱うことができます。

多くのSTLモデルは、現物から測定したデータやコンピュータグラフィック上で作成された画像から作成されます。

現物からSTLモデルを作成する場合は、まず3次元計測器を使用して形状を測定します。

そして次に3次元モデラ(CAD)を使って、測定された点群データから3次元形状を作成し、STLデータとして出力します。

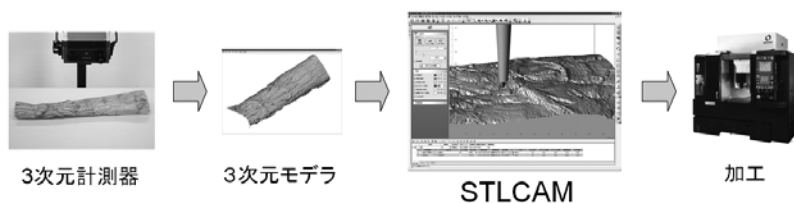
コンピュータグラフィックで表現された形状や画像からSTLモデルを作成する場合も、3次元モデラ(CAD)を使って希望する立体形状を作成し、STLデータとして出力します。

STLCAMの特徴

STLCAMは STLデータを変換することなくダイレクトに読み込めます。

データ変換を行わないため、変換誤差が発生せず、要求されたデザイン形状を忠実に現す加

現物からSTLモデルを作成する場合



コンピュータグラフィックから作成する場合



工ができます。

以下にSTLCAMの特徴を列記します。

(1) 大容量STLデータ処理

STLモデルで3次元形状を表現する場合、要求精度に応じて三角パッチの数を増やす必要があります。このため要求精度に比例してファイルサイズは大きくなります。したがって高精度な加工を行うには、ギガ単位の大容量データを正しく処理する必要があります。

STLCAMは、従来のCAMでは処理できなかった大容量データが扱え、しかも高速に処理することができます。このため高精度のSTLモデルから、形状に忠実な加工を行うことができます。



桜並木のサンプル加工写真

(2) 高精度加工

高精度3次元CAMで実績のある軌跡演算エンジンを搭載しており、等高加工・投影加工・CR加工など多彩な加工方法を装備しています。また標準的に装備されたテンプレートを用いて、簡単な設定で高能率加工のNCデータを出力できます。

(3) 加工条件

高速加工条件を標準で装備しており、アルミ材から高硬度材までの素材に対し、適切な加工条件と切り込みを自動設定できます。したがって初心者でも、安心して実加工用NCデータを作ることができます。

(4) パラソリッドモデルとの合成形状の加工

STLモデルとパラソリッドモデルの融合した形状を加工モデルにすることができます。たとえば、パーティングや機構部分など、精度が必要な部分はパラソリッドモデルを使用し、意匠形状部分はSTLモデルを使用するなど、用途で使い分けることができます。

(5) 素材形状

無駄な加工動作を削減するため、素材形状としてパラソリッドモデルとSTLモデルを使用することができます。したがって、デジタルデザインデータで作成した形状や、他のCAD/CAMで作成されたSTLデータまたはCADデータを素材形状にして、効率の良い(空切削の少ない)加工データを作成できます。

(6) CADとの連携がしやすい

STL/CAMは、入力データとしてパラソリッドモデルとSTLモデルのほかに、IGESモデルに対する変換ソフトも用意しています。

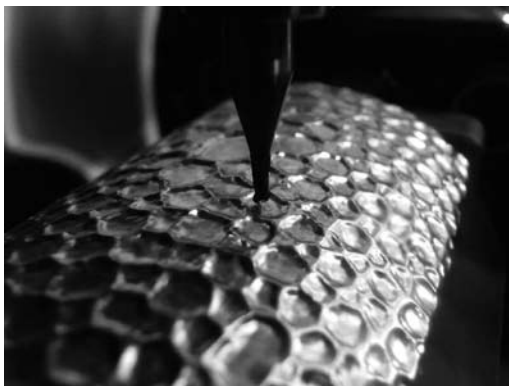
多くのCADや3Dモデラからのデータのやり取りが可能であり、開発・設計・製造など生産にたずさわる多くの部門から、データを受け取れる体制が作れます。

STL/CAMの用途

STL/CAMは今までのSTLデータによる物づくりの評価を変えます。

高精度なSTLデータから高精度な工業製品を製造することを可能とすることで、意匠形状を忠実に削り出すことや、加工現場で手直しされた形状も正確に再現できるようになりました。

例えば、下図のガルーシャのように意匠性の高い製品の表面デザインでは、3次元モデラ

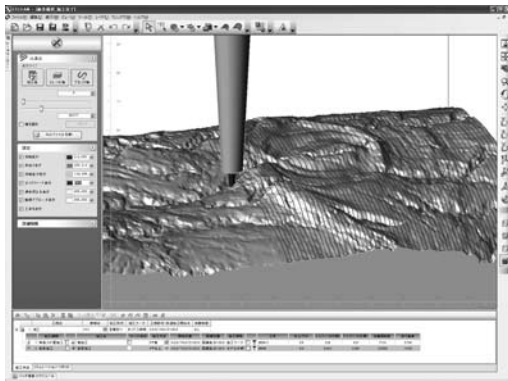


ガルーシャの写真

(CAD)でデザインされた細かな模様も、そのまま忠実に加工できます。

また木の皮のような有機系の形状も、3次元計測器で作成されたSTLモデルから、形状を正確に加工できます。

この応用として、現存する形状を元に製品の複製を行う芸術品や、鍛造や鋳造の型の肉盛り後の補修や各種2番型の作成用データにも活用することができます。



銀杏の木の花

まとめ

従来加工は、上流からのデータを元に加工することが主でした。しかしSTL/CAMによって、現物や現場で修正後の形状などからのアプローチも可能になります。今までは面倒であったCADへの転送のためのデータ変換作業などを省くこともでき、さらにCADでは表現できなかった意匠形状の加工も可能にします。

今後は、CADデータとポリゴンデータの両方からのアプローチをおこなうことで、まったく新しい生産プロセスを作り出すことも可能になると考えます。

『日本経済の勝ち方 太陽エネルギー革命』

村沢義久 著 (文春新書)



(株) 不二
常務取締役

池浦慎一郎

不況脱出の答えは電気自動車とソーラー。最近の状況を知る上で手頃な一冊といえはこの本ではないでしょうか。20世紀型文明は行き詰まり、21世紀型エネルギー・システムを模索し、燃やす文明から燃やさない文明へ。無限のエネルギー源・太陽光と風力を活かし、救世主リチウムイオン電池を使用した電気自動車のとてつもない可能性。世界はいかに変わるのか。まさに、21世紀の産業革命。日本はリーダーとなれるのか。著書の村沢東京大学特任教授は、先日のTV番組でも、電気自動車は自動車ではありません、動く家電です、とお話されていたのが印象的です。第9章、第10章だけでも読めばわくわくしてくる一冊です。この本でも触れられている『誰が電気自動車を殺したか』(Who killed the electric car?)という米国ドキュメンタリー映画(2006)もぜひご覧ください。既存の自動車産業を守ろうとする保守勢力が電気自動車の成長の芽を摘み取ったのでは? という内容です。

もう一冊、NIKKEI NETエコロミーで連載されていたコラム“2010年に生き残るクルマ”が加筆・編集され書籍化された『3年後に生き残るクルマ』 館内 端 著(宝島社)も参考にどうぞ。第1章では、自動車をめぐる状況を整理し、第2章では、ハイブリッド車の現在に迫り、第3章では電気自動車の実力を分析しています。自動車評論家、EVクラブ代表でもある同氏によると、既存のガソリン車と比べることはナンセンスであり、我々の社会が電気自動車に適応していく文化を創ることが大切と語っています。短くても十分な走行距離であり、こまめに充電するなら、わずかな時間で済むのです。ガソリンスタンドのように急速充電スタンドを数多く作る必要もなく、あれば安心という程度。ポイントは、メインの充電基地が、自宅となること。その充電は深夜の時間帯であることだそうです。また、電気代はわずかなので、充電ビジネスとしては絶対儲からないそうですが。

100年に一度の不況で100年続いたガソリン車時代の終焉となるかわりに、新しい電気自動車時代がやってきたということなのでしょう。いつかはこうなると皆、感じていたのでは。温暖化防止もそうですが、原油高騰、金融危機、オバマ政権誕生、BIG3崩壊で決定的となりました。この間に進んでいるところはさらに磨きを、遅れているところは至急といった感じです。日本の技術力よ、ありがとう。クルマの排気ガスよ、さようなら。それにしても中国が加速しています。

関連書籍：『電気自動車が加速する!』 御堀直嗣 著 技術評論社
『ハイブリッド』 木野龍逸 著 文春新書
『脱「ひとり勝ち」文明論』 清水 浩 著 ミシマ社



リレー随筆



(株)北川鉄工所
営業本部工機 横浜営業課

高峰智徳
(タカバチ トモノリ)

日工販の会員企業様には日頃より大変お世話になっております。この場をお借りして御礼申し上げます。

1991年に(株)北川鉄工所へ入社以来、気が付けば18年、営業職として日々奔走しております。いまの自分があるのも仕事・プライベートも含め、さまざまな方との出会い、お付き合いがあればこそと日々感謝する次第であります。

さてリレー随筆のご依頼をいただき何を書こうかと思ひ悩んでおりましたが私の個人的趣味であります、車について寄稿させていただくことにしました。

実は8年ほど前まで私はあまり車の運転が好きではありませんでした。そんな私の世界を変えてくれたのがユーノスロードスター(現、マツダロードスター)でした。1989年のロードスター発売当時、小型のオープン2シータースポーツというカテゴリーは市場からほぼ死滅状態でした。

1970年代から自動車に対する消費者の嗜好が快適性重視に変わっていったことや、年々厳しくなる北米の衝突安全基準をクリアできなかったことなどがその理由です。

しかし、マツダはその間、北米を中心とした度重なる市場調査によって潜在需要が非常に期待できることを掴んでおり(計画自体何度もお蔵入りの危機に遭っていたが、最終的にこの調査結果があったので発売できた)、自動車業界の冷やかな予測に反し、発売後瞬く間に世界中で大反響を呼びました。

かのライトウェイトスポーツカーの名門ロータスが、「我々の作ろうと思っている車が間違いではないと証明してくれた」と語ったとされ、本場のメーカーを唖らせるほどその完成度は非常に高いものでした。

生産技術の優秀さや性能に対する低コストぶりなど、技術面での評価が目立つ日本車において、車造りの「思想」という面で世界に多大な影響を与えた稀有な存在です。

2000年には生産累計53万1890台を達成し、「世界で最も多く生産された2人乗り小型オープンスポーツカー」としてギネスブックに認定を受けました。また2007年には80万台を達成し、三度ギネスへの申請を行なっています。

そんなロードスターを語る上で私の好きな言葉があります。『人馬一体』、『このクルマを手に入れるほんの少しの勇気を持てば、きっと、だれもが、しあわせになる。』という言葉です。

『人馬一体』は開発コンセプトの大命題であり、開発陣の飽くなきこだわりをあらわした言葉であり、『このクルマを手に入れるほんの少しの勇気を持てば、きっと、だれもが、しあわせになる。』は発売当時のカタログの1ページ目に書かれていた言葉です。

私は中古でロードスターを購入した為、カタログはあとから見たのですが、非常に感動したことを今も忘れることができません。

仕事、家庭の事情で運転できる機会は減ってしまいましたが、今でも運転するたびに感動せずにはいられません。

昨年からの厳しい経済情勢の中、消費は冷え込んでおります。そんな時代であるからこそ、お客様と

工作機械と私



トッキ・インダストリーズ(株)
営業部 第1営業課 課長代理

尾 林 哲 夫

私が工作機械の販売に携わることになって20年が経過しました。不安と緊張で迎えた入社初日の事は今でも良く覚えています。午前中は社内で説明を受けた後、午後は上司に連れられ客先訪問となりました。機械(某社のNC自動盤でした)を前にしてどの様な機械かを説明いただきましたが…クーラント液がかかっている加工しているところは良くわからず、機械の大きさの割には加工された製品のあまりの小ささに驚き、挙句の果てには「この機械はどうやって入れたんですか?」などと質問する始末。本当に自分にも売れるのか大きく不安が膨らんだ一日となりました。

その後は先輩との営業同行を経て、手渡されたリストを基にひとりでユーザー訪問となりましたが、やること全てが勉強でした。商品知識はもとより、住所から電車のルート調べ、地図を片手に初めての地で目指すユーザーを探し、そうしてたどり着いた先での扉を開ける勇気まで…。なかなか実績が出ずひたすら歩き回る毎日でしたが、「営業は足で稼ぐ」を実感し、こまめにお客様を訪問することを学んだ時期でもありました。

そして忘れもしない初受注、入社後10ヵ月が過ぎていました。注文書を手にした時は嬉しさと同時にホッとしたのも事実です。まだ工作機械について素人同然の私に、この仕事を続けていくほんの少しの自信を与えてもらい、もう少し頑張ってみようという気持ちを持つことが出来ました。この時の受注が無ければどこまで頑張れたか。今でもこのお客様は私の中では「特別な存在」でありとても感謝しています。感謝と言えば、会社に対してもスローペースな立ち上がりの私を見捨てることなく、芽が出るまで辛抱してもらえたことを有難く思っています。そしてしばらく後には2台目の御注文もいただきましたが、お互いの環境の変化もありしばらく疎遠になっていました。ところが数年前に中国での営業活動の中で当時の工場長に行き当たり、人との繋がりでの不思議さと大切さを思い知ることにになりました。

思えば私は昔から機械物に対する興味・関心が薄く(実はバリバリの文科系です)、まさか自分が工作機械を売る仕事に就くとは考えても見ませんでした。それがもう20年。振り返れば、「この機械稼いでるヨ」と言われた時の喜び、自分の動きが悪かった為に失注した時の悔しさ、不十分な打合せから御迷惑を掛けてしまった時の不甲斐無さ…いろいろ経験させてもらいました。困った時、苦しかった時にはまわりの方々に支えられてここまでやって来られたと思います。

これからも許される限りはこの仕事を続けていくと思いますが、「工作機械の販売を通じて産業界に貢献する」などと大きなことは言いません。ただお客様のお役に立つこと、喜んでいただくことを誇りとし誠実に取り組んでいくつもりです。そして、工作機械を販売していく中での様々な出会いを通して、自分自身が成長していければと思います。

➤ 一体となり、夢と感動を与える商品をお届けする必要があるのではないのでしょうか。お客様の夢を叶える、そのお手伝いをさせていただければ幸いです。今後とも(株)北川鉄工所をどうぞよろしく願いいたします。

東部地区情報交換会

日時：6月3日(水) 13:30~17:00

場所：機械工具会館6階

テーマ：「最近の市場動向と見通しについて」
「現在あるいは近未来で底を打つと思われる業種」

出席者：正会員11社13名、メーカー12社14名、リース5社6名、計28社33名

柴田委員長挨拶：

例年ですとこの時期は工場見学をしておりましたが、現状を考慮しまして、工場見学は中止とし情報交換会を年2回行うことになりました。本日は1回目としてお集まりいただきまして2回目は10月頃に予定しております。GMもついに破綻してしまい、ここ半年間リーマショック以降本当に目を追うごとにめぐるしい考えもしないようなスピードでいろいろ変化しておりますので、是非、本日は同じ業界とはいいいながら少し違った業種もあるかとは思いますが、是非皆様から忌憚のない情報提供あるいは、近況をご説明いただき有意義な情報交換会にしたいと思っておりますので是非よろしく願いいたします。

情報交換：

〔正会員〕

- ・ 国内市場は去年の秋から状況は全く明るくなっておらず上期引き合いも通常の5分の1、上期は少なくとも厳しい状態が続く。
- ・ 自動車関係は全然ダメで発電関係ぐらいが良いという感じ、殆どの業種が底を打ったと思うが上がりずこのまま底が続く状況。
- ・ 医療関係は多少なりとも良くなりそうなところが何社か見受けられる。
- ・ ある自動車メーカーで新しい車種の生産計画

では12月位迄1万台その後倍増の計画あり。

- ・ 中国の57兆円投資の恩恵が4月位から出ている。ただ生産等の先走り等があり調整を要す。
- ・ 海外は中国で多少引き合いあり、アメリカ、北欧、ポーランド・フランスは止まった状況。
- ・ 受注残も微々たる状況。国内は来年いっぱい位は期待出来ない。
- ・ 昨年9月から受注が激減している。2,3月位迄は受注が薄く4月位から引き合いが徐々に増えている。
- ・ 全地域とも良くなく視界不良、この半年間大変厳しく、中止とか延期の案件が一向に復活する気配がない状況。
- ・ 自動車関係はエコとかハイブリッドだけでは浮上は困難。
- ・ 自動車関係は来年いっぱい動かない、設備投資はその1年後という位難しい。
- ・ 自動車関係でも試作とか2015年の省エネ法に向けて軽量化等のための開発部門は活発に動いている。
- ・ 航空機関係ではボーイング787がパリのエアショーに向かって飛び立つ予定で、これが動けば来年の夏以降は多少期待できる。
- ・ 重電・原動機・原子力のエネルギー関係は当面は忙しいが、設備投資は大変特殊であり大型で長納期ということで限定されている。
- ・ 風力発電は昨年に比べ厳しいが、世界で4兆円市場が10年後に10兆円と言われており期待している。
- ・ 建機は数年間は多忙だったが、在庫調整がひとまず終わるのが今年の秋と思われ、当面増産設備まではいかないがハイブリッド化でビジネスチャンスがある。
- ・ 医療機器関係は景気に左右されず成長分野で期待。
- ・ 産業機械の成形機、ダイキャスト、ロボット、フォークリフトは自動車関連と同様で今後も厳

しい。

- ・ 製鉄機械は市場規模は小さいが設備が大変古く30～40年前製で老朽化しており多少の更新需要が見込まれ、特に中国向けは期待できる。
- ・ 鉄道車両の関係は海外からの受注が好調で関連部品について多少明るさが見える。
- ・ 農業機械・林業機械は特に林業機械は政府の補助金が余っている状況、農業機械もハイブリッド化が進むとのことで多少の期待ができる。
- ・ 受注も昨年の秋から悪化、特に1～3月はキャンセル・不安定案件の赤処理をした。
- ・ 5月になり引き合い商談が増えてきたがなかなか受注には結びつかない状況。
- ・ 受注したがリースの承認が得られず、今までなら調達できた資金ができなく受注にならないというのが一部ある。
- ・ 1～3月の最悪の状況は脱したかなと思われるがこの状況が急に回復してくるようには思えない。
- ・ 各地区のディーラー・メーカーを回ると少なくともこの1年は期待できず体力勝負がお互いの合言葉の状況。
- ・ 医療関係ですと関東地区で動いており、農機関係も動いておりますが、業界は非常に小さい。
- ・ 自動車で名古屋地区からほとんど皆無のところからポツンと受注が出て多少は明るいのかなと思われる。
- ・ 全体の仕事量からいくと特に中小企業は非常に厳しく本当にこのまま続いたらものづくりの業界はどうなるのか、なくなるのではという心配もしている。
- ・ 受注は秋以降徐々に下がっているが数字だけを見ると昨年は何とかかなり、本年1～3月は低く新年度4月のスタートは今までの中で一番ひどいという状況。
- ・ 5月の受注をみるとある程度回復し、底を打って明るい兆しが出てきたという感じを受けている。
- ・ GMの破綻で大手の部品メーカーが相当GMに入れているので、せっかくプリウス・インサイトの受注台数も多くなり明るい材料でしたが代金回収の問題等いろんな問題が起きるので水を差すような部分と感じている。
- ・ 海外では中国は確かにローカル関係で動き、国の資金も相当流れて大部動き始めていると聞いている。
- ・ 中小企業の中で、試作関連や多品種少量の一品料理をやっている企業は確かに仕事が忙しい。小さな会社でも5軸加工機等ひと通りの設備があり、かなり精度要求の高い仕事がきており、そういうところは今後も忙しい状況。
- ・ 自動車関係は総ダウンしており、この中で残業を限りなくやっている部署は開発部門で、ハイブリッド用のリチウム電池の開発及び安全性等の確認に工数をかけ動いている。
- ・ 自動車関係の設備はまだまだこれから1年から2年かかると思っている。
- ・ 受注回復は来年の秋口とか春等の話が出ており、我々としては生きていくにはどうしたら良いのか悩んでいる。
- ・ 半導体の製造装置で大手メーカーの下請け企業に行くと秋口頃から外注の仕事が出てくるらしいとの事。
- ・ 新幹線関係の仕事がある企業は受注残もあり、1年から2年は忙しいといった状況。

【メーカー賛助会員】

- ・ 受注は海外部門も総じて良くなく、強いて言えば中国が若干良いのかなという状況。
- ・ お客様の状況から2、3月が底で、4、5月に若干上がったかなという状況で、一部在庫調整は終わっているがまだ予断を許さない状況。
- ・ 自動車関係はまだまだ回復が望めず、好調業

- 種といわれるエネルギー・環境関連・太陽光・電池関係・医療関係向けに機械の受注には結びついていない。
- ・ 底を打ったと言うよりもこの春から底をはいつくばっている。
 - ・ 全般的に引き合いから受注までの道のりが非常に長く、案件として出てくるが要求がいろいろ出て棚上げとか暗礁に乗り上げたとか受注まで時間を要している。
 - ・ 電気・電子・半導体関連の大手の装置の仕事をしているところに聞くと3年後でも2006年の数字は取れなく良くても8割位と想定されている。
 - ・ 原子力・水力・火力発電関係のエネルギー関連は実際に動いており将来ベースで話をもっていくが、機械もかなり特化した5~8mサイズの機械になりその分野に強いメーカーが集中し簡単に参入の余地はあまりない。
 - ・ 食品関係はプシが少ない業界の一つでペットボトル関係に携わるところは新しい技術が注入され忙しい状況。
 - ・ 化粧品関係は女性ターゲットで新しい嗜好が製品に盛り込まれ大きな動きはないか必ず動き話も出ている。
 - ・ 家電関係は2011年の地上デジタル化でテレビ関係で多少の動きがある。
 - ・ 液晶関係の大型のものの内製化ということで動きもある。
 - ・ 病院等の個人が使う小さなテレビも業界では動いているようで仕事も少し取れている。
 - ・ 航空機の方はようやくボーイング787が6月に飛ぶ話があるが関連部品の在庫もかなり抱え急に品物が動くとは考えにくく本格的には来年少以降在庫が動き出してから設備商談が出る状況。
 - ・ 輸出も含め2、3月が底で4、5月は若干増しになって来た状況。
 - ・ 4、5月から中国の景気刺激策のおかげで中国国内の企業が少し動きはじめたと思われる状況。
 - ・ 自動車関連は下請けの方で入れさせていただいており今のところ動きはないが、内製化して外には出てこない傾向もあり、今年いっぱい動いて来ないと見ている。
 - ・ 医療関係は自動車の何分の一位で多くはないが継続的に引き合いをいただいている。
 - ・ 公共投資関係とか防衛省の関係の仕事をやられているところはボリュームが低いところで仕事が続いている。
 - ・ 新規引き合いをいただいても客先の近隣で倒産とか廃業され、そちらの中古機械が引き合い先に廻ったとかの話が出始めている。
 - ・ 5月までは何とかきたが零細企業・中小企業の6、7、8月の倒産が不安。
 - ・ 不況でユーザーが先に中古機械を手放され、新品の商談までくるのは時間もかかることもある。
 - ・ 大型機械は一部ではあるが原子力をはじめとする重厚長大産業の話はあるが、特殊仕様が予想以上に多く納期の折合がつかないという大きな問題が目白押しで、全て対応できる状況下ではなく重たい業界。
 - ・ 関東地域については建機・半導体・風力・それと車両が大きく市場を変えてくれるのではという期待感あり
 - ・ 景気の良い時に決まった大型機械がこれから納入されていく中で、納期の延期、キャンセル等が心配。
 - ・ 国内において景気回復をしたとしても従来と同じような形で回復はしてこないと思われる。
 - ・ 中国に関してはかなり回復が早いだろうと言われた通り回復しつつあるが、かつて売れた高精度機は売れずいわゆる汎用機ニーズに移る等、今回相当様変わりしている。
 - ・ 日本国内は結果として苦しく低調。ただ技術に強い営業マンは忙しく、高精度とかナノ等高精

度を要求したもののづくりに関する相談が多くある。

- ・ 日本国内としては特殊精密機というのはたくさんニーズがこれから出てくると思われる。
- ・ CAD/CAMというソフト分野では工作機械が売れた後その設備の稼働率をいかに上げるかというところに一つビジネスチャンスがあるが今回はその提案もできる状況ではなくその後のビジネスチャンスも低迷している状況。
- ・ ある自動車メーカーの新型車用エンジン部品の新しい加工ラインとか2015年に向けてCO₂削減・軽量化に向けて部品の加工方法が変わり新しいラインの引合いを受けている。
- ・ 中小でも特殊加工の技術を持っている部品加工メーカーは非常に好調で、今期も複合機を新しく買ったとか防衛庁の一部部品とかボーイングの787向けの今までにないアルミを使っていたものがカーボン製にして加工とか特殊加工の技術を持っているところは利益は少ないが少々仕事はある。
- ・ 自動車関係は年内については報道されている通り全減で新規の設備はほぼ無いと睨んでいる。
- ・ 今後の自動車の動向を見ると市場で言われているハイブリッド、電気自動車等といったものになるとエンジンの加工工程数が約3分の1以下と言われ、そうするとマシニングセンタ需要も少しずつ減ってくると思うので今後他の業種の方に力を入れていくような動きもしている。
- ・ ある自動車メーカーでは今迄は専用機からマシニングセンタに変えていたが、今後はマシニングセンタを改造するという形になるので需要が減り、マシニングセンタの寿命自体が10年以上あると思われ、そうなってくると回復はまた先になってくると思われる。
- ・ 自動車が底を打ったと言われているが、生産台数が底を打っただけで設備としてはまだまだ先になってくると思われる。

〔リース賛助会員〕

- ・ 大手の自動車メーカーや建機メーカーは一部稼働日数が戻りつつあるという話が出ているが、内製化が進んでいるので裾野の広い自動車分野の中小企業にはアゲインストの状況が続くと見ている。
- ・ 環境関係でハイブリット関係は動いている話は聞くが一部に限られておりなかなか裾野が広がらない。
- ・ 太陽光発電も大手のプレーヤーに限られ裾野が広がらない分野と考える。
- ・ 昨年から1月にかけて惨憺たる状況。復活は来年の秋口というのは望むが、まだまだ時間がかかる。
- ・ ラインの入替え等構造改革等が見直されている時期で、一部ライン変更・自動化等の設備は多少出てくる。
- ・ 多少動きがあるのは量産のところではなく、殆どが多品種少量生産で極端に言うと1個造りでそういった隙間の中でオリジナルな技術を持たれているところが多少頑張っている状況。
- ・ 太陽光・風力等エネルギーは国が資金を出し雇用を増やすとしているが、具体的に何処にどう話しに行ってもどうなるのかの部分是非常に見えづらく多少動いているのは殆ど大手のみの状況。
- ・ 何処が良いのか何処が底を打ちそうだという話は確信的なものが殆ど無く、発電エネルギー関係とか航空機関係に期待をするという話の実態。
- ・ 会社の人数規模で行くと100人以上のところと逆に2、3人以下のところ厳しく、100人以上の企業は従業員関係で厳しく、2、3人以下のところは営業力もなく新規開拓もできず親会社からの単価値下げ等を単に聞くしかなく厳しい状況。
- ・ 昨年のリーマンショック以降何処が全社的にみて契約を引っ張っているのかという上場クラ

スの大手企業を扱っている部隊が数字的に伸ばして、新規の前向き投資でなく財務リストラによる契約がある程度出ているのが現状。

- ・ 地方の大手企業の話を知ると在庫・生産調整はようやく先が見え、秋位には新規投資を考えるとこの話も出ているが、あくまで大手企業で中小企業では話が出ていない。

以上、現状と見通しについて報告がされ、その後意見交換がされた。

17:00終了

中部地区 正・副会員懇談会

日 時：6月16日(火) 12:00~15:00

会 場：(株)井高 本社5階会議室

参加者：16名

高田地区委員長より、定例理事会・通常総会報告：

- ・ 三菱商事テクノス(株)柴田社長が会長に就任された報告。
- ・ 柴田新会長からは、「あらゆるものが想像もしないスピードで変化している現在、如何にタイムリーな対応が打てるかが最も重要であり、日工販としても変化をいち早くキャッチアップして柔軟な運営を行って行きたい」との就任挨拶の一部を紹介。
- ・ 下期の会費を徴収しないことが通常総会にて承認された旨の報告。
- ・ 総会後の講演会では中国・インドの台頭、そして食料・エネルギー問題から電気自動車についていく事は必然であるとの講演内容が報告されました。

議 事：

(1) 21年度中部地区行事計画と進め方についての意見交換

21年

9月11日

【勉強会】

「決算書のやさしい見方・読み方」

100名規模を予定し、会費を徴収して開催する。

10月

【製品研修会】

難削材加工についての工具メーカー、又はサーボプレスメーカーを検討する。

11月

【懇親ゴルフ会】

状況を見ながら再度検討。

12月3日

【講演会、忘年会】

下記のキーワードから講師の推薦を募る。

- ・三菱自動車/電気自動車関係
- ・TATA nano 低価格車
- ・トヨタ自動車/生技関係者

22年

2月

【工場見学会】

山田ドビー及びキリンビールを候補として検討。

2月

【情報交換会】

地区正会員、賛助会員対象

(2) 市場動向など意見交換

各社から現況についての報告が活発に行われ、その中で特に「ものづくり支援法」に関して、カトー機械(株)加藤社長より経験を交えた詳しいお話を頂きました。

甘回辛回



(株) 山 善
執行役員機械統括部機械統括部長

関 矢 信 雄

新型インフルエンザもフェーズ6とはいえ、マスクをしている人もめっきり減った今日この頃ですが、我家では家内が過剰反応し500枚以上も買い漁りました。そのような姿を見るにつけ、昭和48年のオイルショックの折、トイレットペーパーがなくなるという流言に踊らされ数十セット購入したことを思い出します。さて、一時的に大増産して大きく儲けたマスクメーカーは今後どうなるのでしょうか。いわゆる需給ギャップを数年分抱え込んだ業界が一つできたこととなります。

今回のリーマンショックに端を発した世界同時不況も、根本的にはシェア拡大に走らざるを得ない世界中の経済人の宿命が引き起こした結果であり、リーマンショックがなければもっと大きな破綻が一気に訪れていたかもしれません。我々の業界に目を向けると、1990年1兆4,121億の受注を内外需で達成したとき、日工所属のメーカー従業員数は36,849人でした。その後、何回かの不況を乗り切りながら今回のピークを迎えました。そして、2007年の1兆5,899億のとき従業員数は24,642人でした。すなわち、メーカー1人当り受注で見れば、1990年3,832万が2007年には4,652万と1990年の169%と異様な値を示しています。恐いのは、本来年間受注7~8,000億で、かつ1人当り2,200~2,500万の業界が、徐々に上昇していったため誰もバブルに気がつかず、いつの間にか2倍強の規模になっていたということです。しかしながら、結果的に業界全体は流通も含め大幅な体質の改善強化が進み、筋肉質の力強い業界に生まれ変わり、優秀な人材が少しずつものづくりに回帰してきたように思います。それにしても、今回の反動は強烈で、80%ダウンの実態は他の業界でも例を見ないほどの縮小ぶりです。

私は日本民族は元来、金・銀以外は食料も含め大昔から自給率の低い民族だと思っています。特に江戸時代の人口の急増時からいかに知恵を富に換えるかに腐心してきました。明治維新後は特に海外の技術を取り入れながら、独自の工夫を施し、富に換え食料に換え、民族の繁栄を脈々と続けてきたと思います。勤勉で誠実で、工夫を末端の組織まで怠らず、職場改善や自己改革を粛々と進めてきたのが日本人だと思います。この日本人の「知恵」という特質をもってすれば、今回の不況も必ず乗り越えられると思います。人類の必要とする技術、発明、工夫がこれから日本発で続々と世に出てくることでしょう。ただ、いかに自分をそのような成長産業へ旺盛な開拓心を持って他人より早く到達できるかで大きな格差が出るような気がします。

さて、若い頃から何人もの作家に憧れ、それらの小説を読み漁ってきました。中でも、城山三郎氏のファンで、特に今回テレビドラマ化される『官僚達の夏』は30年も前に読みましたが、強烈な印象を受けました。モデルは、退官後天下りを拒否し年金生活を送った数少ない官僚 佐橋滋氏です。7月の放映を楽しみにしていますが、その信念を貫くパワーと迫力には圧倒されました。また、若い頃から不況になると、津本陽氏の『柳生兵庫助』を読み直してきました。作者も剣道をたしなむだけあって、苦難を乗り越えるときの呼吸、思い切りのよさなど今でも参考になります。最近では北方謙三氏の曾祖父の若い頃を描いた『望郷の道』が印象的でした。どれを取っても一途な生き様にはいくつになっても考えさせられます。

日本語という言葉の美しさ、表現力に囲まれ生きてこられたことは、本当に日本人に生まれてよかったと思いますし、読み返すことにより困難な局面に対しても自信が湧いてきます。この一年が勝負だと思います。業界の皆さんで、日本人の特質を次代の人々に伝え育みながら、この難局を乗り越えていきましょう。

統

計

資

料

工作機械・FA流通動態調査 1

統計1

単位百万円

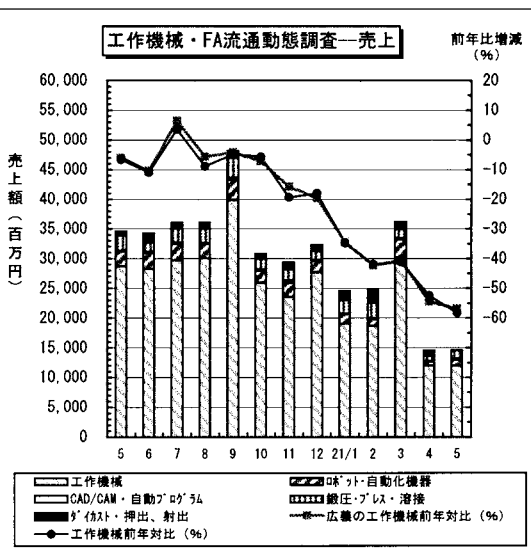
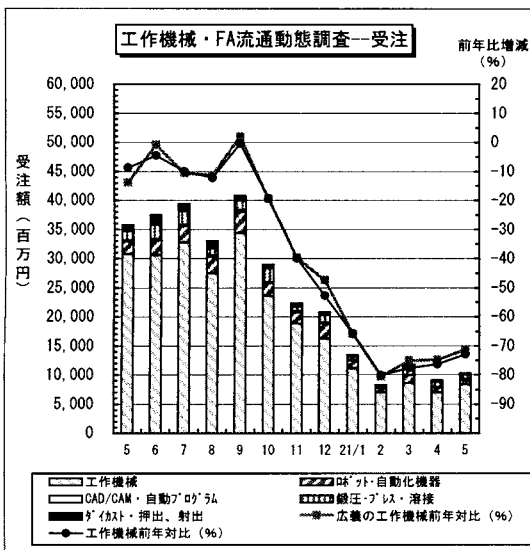
39社合計		受 注					売 上				
調査月次		21/05	前月比	前年比	21/1-21/5	前年比	21/05	前月比	前年比	21/1-21/5	前年比
広義の 工作機械	工作機械	8,344	19.6%	-72.9%	33,728	-74.7%	11,966	-0.5%	-58.3%	79,670	-44.9%
	ロボット・自動化機器	760	-18.5%	-64.6%	4,330	-59.4%	997	59.8%	-59.4%	6,621	-42.0%
	CAD/CAM・自動プログラム	215	190.5%	1.2%	349	-60.4%	185	123.4%	1.8%	487	-53.2%
	鍛圧・プレス・溶接	735	-11.2%	-52.5%	3,123	-68.1%	1,437	69.9%	-42.7%	7,230	-28.8%
	ダイカスト・押出、射出	225	-15.7%	-79.9%	1,022	-84.6%	278	0.7%	-70.8%	1,420	-75.8%
	小計	10,279	13.2%	-71.3%	42,552	-73.7%	14,863	7.3%	-56.9%	95,428	-44.7%
工作機械以外の扱い商品		5,301	-7.8%	-57.6%	30,379	-50.0%	5,697	-18.2%	-53.8%	37,038	-37.8%
合計		15,580	5.1%	-67.7%	72,930	-67.5%	20,561	-1.2%	-56.5%	132,560	-43.0%
従業員数		1,354	-0.3%	2.0%							

統計2

単位百万円

30社合計		受 注					売 上				
調査月次		21/05	前月比	前年比	21/1-21/5	前年比	21/05	前月比	前年比	21/1-21/5	前年比
内 訳	直販 (内リース)	5,472	-16.3%	-76.0%	32,170	-69.5%	8,686	3.1%	-55.0%	59,283	-42.9%
	卸	368	-2.6%	-72.9%	2,287	-68.6%	529	-24.9%	-54.7%	4,728	-46.1%
	卸	2,153	33.1%	-73.1%	6,405	-81.8%	3,290	-2.2%	-61.5%	20,277	-53.3%
	輸入	652	0.6%	70.2%	2,547	7.0%	177	-63.8%	-89.9%	2,078	-42.2%
	輸出 (内間接輸出)	1,253	64.0%	-77.0%	4,733	-80.7%	1,483	-73.6%	-71.2%	14,133	-45.9%
	輸出 (内間接輸出)	105	-50.7%		527	-84.0%	216	-61.4%		1,763	-63.3%
従業員数		988	-0.5%	5.3%							

注：本調査は、20年4月より集計対象会員を見直し、前年分も集計し直した数値と比較した。
 会員71社中統計1に関しては39社、統計2に関しては30社の回答を得て集計したものである。
 折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
 参考までに今月のデータ提供会社総数は42社である。



工作機械業種別受注額(2009年5月)

6月16日発表

(単位:百万円、%)

需業業種	期 間	2008年 累 計	前年比	2008年 10~12月 累 計	2009年 1~3月 累 計	前期比	前 年 同期比	2009年 1~5月累計	前 年 同期比	5 月分	前月比	前 年 同月比
機 械 製 造 業	1. 鉄鋼・非鉄金属	12,991	102.6	2,395	459	19.7	13.5	791	14.1	339	-	33.6
	2. 金属製 品	19,218	89.0	3,246	1,404	43.3	25.0	2,304	24.2	400	80.0	19.3
	3. 一 般 機 械 (内金型)	248,456	77.8	33,905	12,951	38.2	16.8	22,717	18.0	5,200	113.9	20.5
	4. 自 動 車 (内自動車部品)	39,059	68.6	5,502	1,907	34.7	15.9	4,182	21.2	930	69.1	23.0
	5. 電 氣 機 械	161,336	75.7	15,915	2,895	18.2	5.2	9,029	10.5	3,214	110.1	21.4
	6. 精 密 機 械	82,139	89.1	7,809	461	5.9	1.7	2,100	4.8	1,226	296.9	14.2
	7. 航空機・造船・精密計 測機・運送用機械	33,058	71.3	6,166	2,180	35.4	21.2	3,861	24.2	1,290	329.9	38.2
	8. その他製造業	24,735	78.3	2,556	1,307	51.1	15.9	2,318	17.2	346	52.0	14.2
	9. 官公需・学校	57,793	74.2	8,722	3,487	40.0	18.8	6,179	21.0	1,636	154.9	28.1
	10. その他需要部門	30,798	103.4	5,540	1,438	26.0	16.7	4,278	29.2	647	29.5	22.4
	11. 商社・代理店	498,383	77.9	64,082	20,771	32.4	13.0	42,203	16.4	10,697	99.6	21.8
	12. 受 注 累 計 (内NC機)	21,099	60.6	3,839	619	16.1	7.8	1,679	14.7	423	66.4	25.7
販 売 額 (内NC機)	2,199	106.1	815	579	71.0	238.3	691	177.2	47	72.3	42.0	
受 注 残 高 (内NC機)	7,973	97.7	1,775	967	54.5	44.9	1,368	38.5	257	178.5	38.9	
1~11. 内 需 合 計	4,957	70.6	758	423	55.8	24.8	699	26.3	160	137.9	34.4	
12. 外 需	566,820	78.0	76,850	25,222	32.8	14.0	49,735	17.2	12,323	101.1	22.4	
1~12. 受 注 累 計	734,327	85.0	93,253	35,171	37.7	16.6	63,406	17.4	15,241	117.3	19.6	
1~12. 受 注 累 計 (内NC機)	1,301,147	81.8	170,103	60,393	35.5	15.4	113,141	17.3	27,564	109.5	20.8	
販 売 額 (内NC機)	1,254,661	82.0	163,034	56,716	34.8	15.0	107,032	17.0	26,327	109.7	20.7	
受 注 残 高 (内NC機)	1,472,029	96.7	297,916	228,187	76.6	53.8	306,538	47.7	39,318	100.7	32.9	
1~12. 受 注 累 計	1,421,109	96.8	288,525	220,210	76.3	54.0	296,249	47.9	38,118	100.5	33.2	
1~12. 受 注 累 計	574,383	75.7	574,383	407,075	70.9	56.4	374,984	49.0	374,984	95.4	49.0	
1~12. 受 注 累 計 (内NC機)	544,655	75.4	544,655	380,269	69.8	55.3	349,455	47.8	349,455	95.4	47.8	

出所:(社)日本工作機械工業会



日工販SE合格者 第165回発表

今回は6月の合格者14名です。

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
09-18-2304	(株)山善	井上 啓輔	09-18-2311	首都圏リース(株)	石丸 隆太
09-18-2305	(株)山善	巧 洋紀	09-18-2312	近畿総合リース(株)	名越 玄樹
09-18-2306	(株)山善	神村 英彦	09-18-2313	藤田商事(株)	程田 博紀
09-18-2307	(株)ジーネット	長井 佳裕	09-18-2314	岩谷産業(株)	山崎 聡太
09-18-2308	三菱電機(株)	中園 弘崇	09-18-2315	(株)森野	茂田 裕樹
09-18-2309	メルダスシステムエンジニアリング(株)	長谷川主税	09-18-2316	ひろぎんリース(株)	一橋 芳徳
09-18-2310	興銀リース(株)	今野 昌幸	09-18-2317	岡谷機販(株)	大石 聡

更新研修合格者 第112回発表

今回は6月の合格者2名です。

認定No.	会社名	合格者名
09-13R-0758	伊藤忠メカトロニクス(株)	中尾 嘉孝
09-13R-1043	(株)兼松KGK	石川 泰平

会員・業界消息

代表者変更……………	東部地区正会員	双日マシナリー(株) 取締役社長 中島和彦 日鋼商事(株) 取締役社長 打越光弘 三井物産マシンテック(株) 取締役社長 谷本 敦
	メーカー賛助会員	大昭和精機(株) 代表取締役社長 仲谷穰治 三井精機工業(株) 取締役社長 岩倉幸一
	リース賛助会員	近畿総合リース(株) 取締役社長 下平薫夫 昭和リース(株) 取締役社長 土屋明正
窓口変更……………	東部地区正会員	日鋼商事(株) 機械二部長 伊藤悦夫
	メーカー賛助会員	ブラザー工業(株) 産業機器営業部部长 星 真 ヤマザキマザック(株) 常務取締役 井戸昌紀
	リース賛助会員	NTTファイナンス(株) 専門営業部課長代理 濱田拓哉

行事予定

西部地区研修会	9月1日(火)	大阪産業創造館
政策委員会・定例理事会	9月9日(水)	大阪産業創造館
中部地区研修会	9月11日(金)	名古屋市工業研究所
SE講座・東 京	10月15日～17日(木～土)	仏教伝道センター
SE講座・名古屋	10月22日～24日(木～土)	I.M.Yビル(名古屋市東区)
SE講座・大 阪	10月29日～31日(木～土)	新梅田研修センター

展示会

EMO MILANO 欧州国際工作機械見本市	10月5日～10日(月～土)	フィエラミラノ
メカトロテックジャパン2009	10月14日～17日(水～土)	ポートメッセなごや
プレス・板金・フォーミング展 MF-TOKYO2009	10月14日～17日(水～土)	東京ビッグサイト

編集後記

- 7月号をお届けします。今月号は第40回通常総会特集です。柴田新会長が選出され、まだ出口に明かりが見えない暗いトンネルの中で尾瀬前会長からのバトンタッチとなりましたが、新会長のメッセージにありますように日工会と情報交換等関係をよりいっそう密に製販一体となってこの難局を切り抜けて行けば出口はそれほど遠くはないと思います。また製販一体に官も加えて、製販官一体となり前に進みましょうと経済産業省米村課長より大変心強いメッセージもありました。
- “100年に一度”というフレーズが様々な状況で出てきますが、4気筒・4サイクル・20馬力エンジンを搭載したフォードモデルT型が登場してからはほぼ100年となった米国自動車産業界で、これまでトップの座に君臨してきた巨大自動車会社GMがついにChapter 11(連邦破産法第11条)を申請しました。これは会社経営再建のための法的手段の一つで、現在の事業経営を継続することを前提としたもので、私達がイメージする「破産」「倒産」はChapter 7(連邦倒産法第7条)ですが、いずれにしてもGMは大きな転換を迫られています。車の販売量が減少してきたことも破綻理由の一つですが、実はいつかこうなると思われるもう一つのもっと大きな問題を抱えています。それは他の2社にもいえる日本メーカーに比べ時給が約3割高いと言われている高コスト体質です。賃金コストを分析すると福利厚生費が日本に比べはるかに多く、そしてレガシーコストと呼ばれている退職者向けの年金や保険などの重い金銭負担がクローズアップされてきます。その結果GMの自動車1台あたりの従業員の医療保険費用は1,500ドルとなりトヨタの201ドルに比べあまりにも負担が大きく、右肩上がりの販売により何とか支えられてきたが急速な販売の落ち込みにより、ついに負担の限界を超えたことが分ります。従って政府管理の下でこのレガシーコストをどう清算し高コスト体質から抜け出せるかにGMの再生が懸かっていると思われます。
- 日工会発表の5月の受注総額確報は内需は前月比1.1%増の123億円、外需は同17.3%増の152億円と総額は前月比9.5%増の276億円となりました。わずかですが4カ月連続の前月比増で依然として200億円台の低い受注額ですが、底這い状態から持ち直しの動きが出てきたと思います。

「日工販ニュース」 Vol.21—No.7

平成21年7月15日発行

発 行	日本工作機械販売協会 〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階 電 話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879
発行責任者	専務理事 宇佐美 浩
編 集	日工販調査広報委員会 委 員 長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (五十音順)

平成21年7月1日現在

正会員(全71社)

【東部地区(35社)】

(株) 旭 商 工 社
伊藤忠メカトロニクス(株)
今井機械工業(株)
大石機械(株)
(株) カ ナ デ ン
(株)カネコ・コーポレーション
(株) 兼 松 K G K
(株) 京 二
(株) 共 和 工 機
群馬工機(株)
(株) 国 興
(株) 三 機 商 会
三洋マシン(株)
サンワ産業(株)
シマモト技研(株)
住友商事マシネックス(株)
(株) セイロジャパン
誠和エンジニアリング(株)
双日マシナリー(株)
太平興業(株)
(株) 高 橋 機 械
帝通エンヂニヤリング(株)
(株) テ ヅ カ
(株) T E M C O
トッキ・インダストリーズ(株)
(株) ト ミ タ
(株) N a i T O
(株) ナ チ 常 盤
日鋼商事(株)
藤田総合機器(株)
三井物産マシンテック(株)
三菱商事テクノス(株)
(株) ヤ マ モ リ
ユアサ商事(株)
米沢工機(株)

【中部地区(20社)】

石原商事(株)
(株) 井 高
岡谷機販(株)
力ト一機械(株)
釜屋(株)
岐阜機械商事(株)
甲信商事(株)
三栄商事(株)
三機商事(株)
サンコー商事(株)
三立興産(株)

下野機械(株)
(株) 大 成
(株) 大 誠
(株) 東 陽
(株) 日 本 精 機 商 会
浜松貿易(株)
(株) 不 二
山下機械(株)
ワシノ商事(株)

【西部地区(16社)】

赤澤機械(株)
伊吹産業(株)
植田機械(株)
(株) お じ ま
関西機械(株)
京華産業(株)
五誠機械産業(株)
桜井機械(株)
(株) ジ ー ネ ッ ト
大幸産業(株)
(株) 立 花 エ レ テ ッ ク
西川産業(株)
日本産商(株)
マルカキカイ(株)
宮脇機械プラント(株)
(株) 山 善

賛助会員(全69社)

【製造業(53社)】

(株) ア マ ダ ワ シ ノ
(株) エ グ ロ
エヌティーツール(株)
(株)MSTコーポレーション
エンシュウ(株)
オーエスジー(株)
オークマ(株)
大阪機工(株)
(株)岡本工作機械製作所
(株)神崎高級工機製作所
(株)北川鉄工所
キタムラ機械(株)
キャムタス(株)
(株)グラフィックプロダクツ
コマツNTC(株)
黒田精工(株)
(株) ジ ェ イ テ ク ト
(株)シギヤ精機製作所
新日本工機(株)
住友電工ハードメタル(株)

(株) ソ デ ィ ッ ク
大昭和精機(株)
(株) 太 陽 工 機
高松機械工業(株)
(株) 滝 澤 鉄 工 所
(株) ツ ガ ミ
津田駒工業(株)
(株) 東 京 精 密
東芝機械マシナリー(株)
東洋精機工業(株)
(株)ナガセインテグレックス
中村留精密工業(株)
(株) 日 研 工 作 所
日本ディエムジー(株)
浜井産業(株)
日立ツール(株)
ファナック(株)
富士機械製造(株)
ブラザー工業(株)
豊和工業(株)
牧野フライス精機(株)
(株)牧野フライス製作所
(株)松浦機械製作所
三井精機工業(株)
(株) ミ ッ ト ヨ
三菱重工業(株)
三菱電機(株)
三菱マテリアルツールズ(株)
(株) ミ ヤ ノ
メルダシステムエンジニアリング(株)
(株) 森 精 機 製 作 所
安田工業(株)
ヤマザキマザック(株)

【リース業(16社)】

NTTファイナンス(株)
共友リース(株)
近畿総合リース(株)
興銀リース(株)
首都圏リース(株)
昭和リース(株)
GEフィナンシャルサービス(株)
JA三井リース(株)
住信リース(株)
東銀リース(株)
東芝ファイナンス(株)
日本機械リース販売(株)
日立キャピタル(株)
三井住友ファイナンス&リース(株)
三菱電機クレジット(株)
三菱UFJリース(株)